



第24回少年の主張鏡石町大会に出場した皆さん

第24回 少年の主張 鏡石町大会



8月5日(金)、第一小学校あやめホールで第24回少年の主張鏡石町大会が開かれ、小学生4人、中学生3人が出場し、小学生の部は皆川ちかさん(鏡石二小5年)、中学生の部は遠藤理央さん(鏡石中3年)が最優秀賞を受賞しました。また、阿部悠貴さん(鏡石一小6年)、面川瑤青さん(鏡石中1年)が優秀賞を受賞しました。中学校の部に出場した3人は、県大会に推薦されます。ここでは、最優秀賞の2人の作品を紹介します。

争いを減らすために

鏡石二小5年 皆川 ちか

二月二十四日、私が学校から帰ると、テレビには、大きな文字で「ロシア、ウクライナに軍事侵攻」という文字が映し出されていきました。

毎年、お盆のころになると、日本では太平洋戦争についてのテレビ番組が放送されます。戦争と言えば、私にはあの恐くて悲惨なイメージが強く、今回の出来事には大きなしよげきを受けました。その夜のニュースはウクライナのことばかりで、父とじつとテレビを見ていました。「どうなってしまうの？なぜ戦争になったの？」私の頭の中はクエスチョンだらけでした。

ウクライナという国について、私はくわしくありませんでしたが、テレビや父の話などから、少しわかるようになりました。ウクライナはロシアの西側にある小さな国で、日本と同じくらいの大きさです。昔、大きな原発事故が起きた場所でもあり、私たちと環境や状況が似ているなど感じました。しかもウ



クライナはもともとロシアと同じ国だったと言います。そんな国同士がどうして？ますます疑問は大きくなるばかりです。

テレビには毎日ウクライナの様子が映し出されています。兵士の他、一般の人にもたくさん死者が出ています。攻撃を受けてボロボロになった建物、サイレンが鳴り続く避難する人々、病室のベットで治療されている子ども、そのそばで泣いている家族……胸がギュッと痛くなりました。

このような戦争が起きてしまった理由を報道番組の解説者が話していました。NATOというグループのこと、ロシアはウクライナに離れて欲しくないこと、説得できずに武力行使にふみきったことなどです。つまり、自分の味方について欲しい友達を、強引におどして引き留め

言葉にのせる思い

鏡石中3年 遠藤 理央

あなたの「おはようございます。」「はきちんと相手に届いていますか。声を出して挨拶をすれば、当たり前が届くと思ってる人がほとんどでしょう。でも本当にそうでしょうか。そう考えるようになったのは、ある出来事があったからです。



鏡石中学校には、毎朝、生徒会による朝のあいさつ運動という伝統があります。生徒会に所属している私は、昇降口に立ち、「おはようございます。」と挨拶をするのが日課になっています。

私は、これがあいさつの伝統を引き継ぐ使命であると感じ、毎朝声を張って活動しました。挨拶を返してもらえると嬉しくなります。しかし、挨拶を返してくれない人だけではありません。軽い会釈だけの人、無視をする人……私はそんな人たちに正直言って軽蔑し、許せませんでした。

ある日、家に帰ってから、母にあいさつ運動の愚痴をこぼしました。「それは大変だったね。」そう言われると思っていながら、それは全く違っていました。「あなたの挨拶に気持ちがい

ようとしているのでしょうか。でも、今回の出来事は、思い通りにならない友達とけんかをして、しばらく話さなくなったり、文句を言ったりするのはわけがちがいます。国と国との争いごとは、そこにたくさん国民が巻き込まれて悲しい思いをしたり、エネルギー問題や食糧問題など、他国への影響もかなり大きなものとなります。

私は、戦争について考えてみました。国を友達などに置き換えてです。まず、自分が友達と争わないようにするにはどうすればいいのでしょうか。それは、自分のことばかりではなく、相手のことも考えてあげることだと思えます。どう考えているのか、こつちの考えを押しつけるだけではなく、ゆずってあげることも大切です。そしてお互いが納得いくようにすればいいのではないのでしょうか。

次に友達同士が争っている場合です。私は今まで、友達がけんかしていても無関心なことがありました。でも、それはよくないことだということに気づきました。なぜそうなっているのか、自分に何かできることはなにか他人事にせず、考えてあげ

もっていないんじゃない。「母から一言。私は何も言い返せませんでした。なぜなら、伝統を引き継がなくてはならない、という使命感だけにとらわれ、ただ淡々と挨拶をしていたことに気づいたからです。気持ちがこもっていないならば、挨拶の意味がありません。私は自分が恥ずかしくなりました。

そんな自分を変えたくて、その翌朝からは笑顔で、そして気持ちのこもった挨拶を意識しました。「おはようございます。」

残念ながら全員に挨拶を返してもらうことはできませんでしたが、しかし、「いい挨拶だね。」と先生から褒めていただくことができたのです。気持ちがこもった言葉は誰かの元に届く。そう思うと嬉しくてたまりません。きつとあの人たちにほんの「ミリくらい届いている」と信じて。

みなさんは言葉という言葉を知っていますか。言葉とは、「言葉に宿ると信じられた神秘的な力」のことです。しかし、私は気持ちがこもっていない薄っぺらな言葉には力が宿るとは思えません。宿るとするならば

ることはできるはずですが、その友達にも周りの人にも少しでも役に立つのでは、と思っただけです。

また、今回の戦争で、どちらかを一方的に悪者と決めつけてはいけません。戦争を起す今、私たちに、戦争を起すのはロシアで、ロシア人全員に悪いイメージがついてしまっています。でも、悪いのは国の一部の人であって、多くのロシアの人々は平和を願っていることではないのです。ロシア人悪ではないのです。だから、SNSなどで誹謗中傷し、これ以上罪のない人々に悲しい思いをさせてはいけません。

このことは、日常生活にも言えることです。相手を理解すること、周りに無関心にならないこと、まわがった情報で誹謗中傷などを行わないこと。ほんの小さなことですが、一人ひとりがこのことを意識するだけで争いや悲しい思いは減っていくと思います。

ロシアとウクライナの戦争が一日も早くおさまり、平和な日々がどちらの国にも訪れることを、私は心から願っています。

ば、気持ちがこもった深く重い言葉だと思えます。誰が言ったか、どんな言葉なのかではなく、どんな気持ちをこめたのか。それが言葉に宿る力の源であると考えます。

しかし今、気持ちがこもっていない言葉を耳にすることが多くなっているように感じます。例えば、略語。友達が日直で忙しそうにしているのを見て、「黒板消しておこうか。」と尋ねると、「よろー。」と軽く返されてしまいました。友達はおもしろおかしく言ったようで私は笑って引き受けました。

しかし、それとは逆に、私の心は切なくなりました。短縮された言葉は、気持ちのこもっていない、冷たい言葉に聞こえます。短い言葉の方が簡単でイケてるという意見が多いでしょう。しかし、今必要なのは、本来の言葉に自分の気持ちを素直にこめることであると思えます。

毎日使う言葉だからこそ丁寧に、そして大切に。言葉にのせる思いを相手に届けたい。だからもう一度聞きます。あなたの「おはようございます。」は相手に届いていますか。